

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立今泉小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 82人

② 算数 82人

#### 5 留意事項

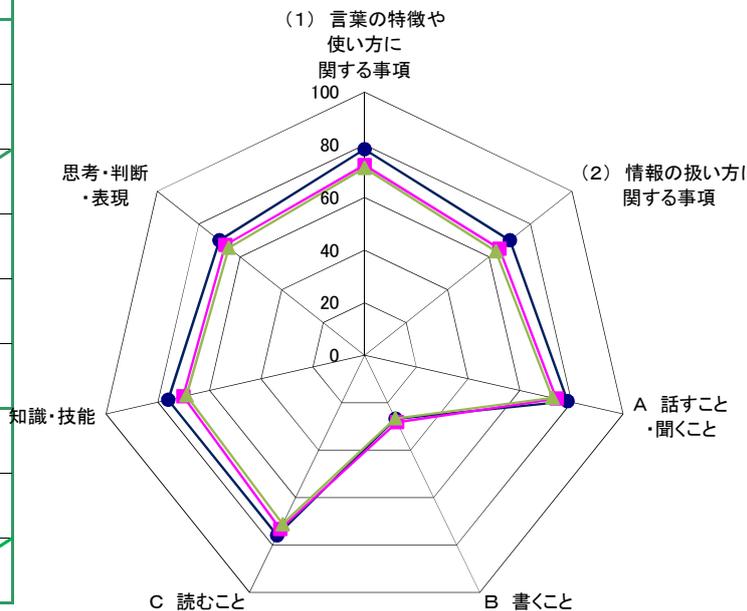
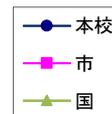
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立今泉小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 78.3 | 72.3 | 71.2 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    | 70.1 | 65.0 | 63.4 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 78.5 | 74.2 | 72.6 |
|     | B 書くこと             | 26.8 | 28.2 | 26.7 |
|     | C 読むこと             | 76.0 | 73.3 | 71.2 |
| 観点  | 知識・技能              | 76.0 | 70.2 | 68.9 |
|     | 思考・判断・表現           | 70.0 | 67.2 | 65.5 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



## ★指導の工夫と改善

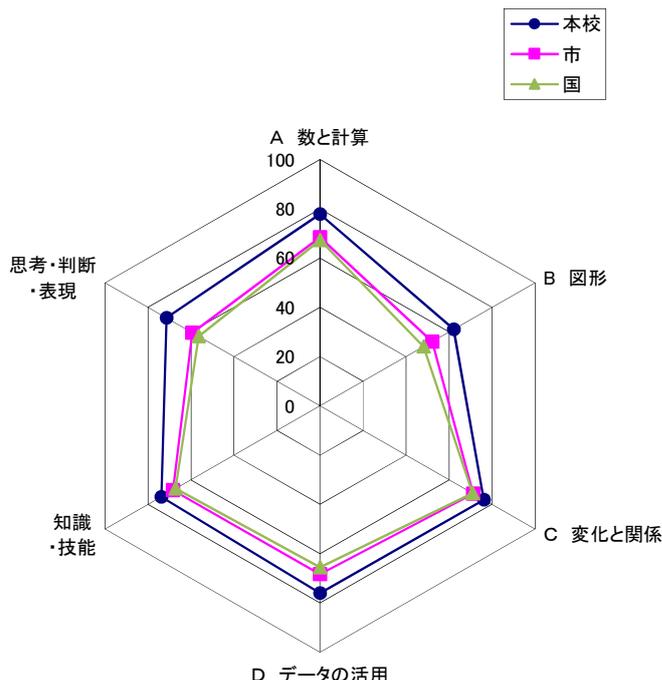
| 分類・区分              | 本年度の状況  | 今後の指導の重点   |
|--------------------|---|--|
| (1) 言語の特徴や使いに関する事項 | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○日常よく使われる敬語を理解し、正しく使うことができている。</p> <p>●全体的に漢字の書き取りの問題はよくできているが、問題によっては正答率が6割に満たないものもある。</p>   | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・新出漢字の読み書きを覚えるだけでなく、様々な使い方を練習したり、普段から既習漢字を使うように意識させる声掛けを行い反復練習したりするなど、能動的に漢字を使用する意識を高めていく。</p>  |
| (2) 情報の扱いに関する事項    | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○情報の扱いに関する事項の問題のどちらも全国の平均正答率を6～8ポイント上回っている。</p> <p>●本校の平均正答率は70.1%で、市や全国の平均を上回っているが、他の領域に比べると、平均正答率が低く、課題があると言える。</p>   | <p>・国語の時間に限らず、様々な活動で原因と結果など情報と情報の関係について考え理解する機会を設けていく。</p> <p>・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を使う場を多く設定していく。</p>  |
| A 話すこと・聞くこと        | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える設問の正答率は87.8%であり、全国の正答率は13.8ポイント上回っている。</p> <p>●目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめて書く設問の正答率は63.4%で、全国の正答率は6.8ポイント下回っている。また、無回答率も22.0%で、全国の平均より7.7ポイント高かった。</p> | <p>・自分の考えを「意見」「根拠とする事実」「事実をどのように解釈したか」といった論理的な文章としてまとめられるよう、話すこととのメモを書く活動の際には、内容の組立てについても指導していく。</p>   |
| B 書くこと             | <p>平均正答率は、市や全国の平均と同程度であった。</p> <p>●メモカードの内容とグラフから分かったことから、自分の考えをまとめて書く設問であるが、本校の平均正答率は26.8%で、全国の平均とほぼ同じであったが、無回答率は6.6%で、複合的に考え、文章にまとめることに苦手意識をもつ児童がいると言える。</p>  | <p>・国語の時間に限らず、様々な授業で振り返りの時間を取り、時間内に自分の考えや思いを書く活動を取り入れていく。</p> <p>・各教科において資料や図・グラフを読み取り気付いたことを文章に書いてまとめる活動を、積極的に行っていく。</p> <p>・自分の思いや考えを伝えることができるようにするために語彙力の向上を図っていく。そのために、読書を推奨したり、分からない言葉を辞書で調べたりする活動を取り入れていく。</p> |
| C 読むこと             | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○資料に書かれている内容を読み取り、中心となる語や文を見つけて要約したり、必要な情報を見付けたりする問題の正答率は75.6%で、全国の平均を8.2ポイント上回っている。</p> <p>●資料の文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを文章にまとめる問題の正答率は、全国平均より高いものの、正答率が62.2%で全体の設問の中では正答率が低く、課題があると言える。</p>               | <p>・今後も授業の中で、説明文や資料などを読む場を設定し、読み取った内容を自分の言葉で説明したり、自分の考えたことを伝え合ったりする活動を積極的に取り入れていく。また、説明文を読むときに、文章と図・表・グラフなどを結び付け、必要な情報は何か考えながら文章を読み進めることができるよう指導していく。</p>  |

# 宇都宮市立今泉小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と計算        | 77.8 | 68.4 | 67.3 |
|    | B 図形          | 62.2 | 52.2 | 48.2 |
|    | C 測定          |      |      |      |
|    | C 変化と関係       | 76.2 | 71.2 | 70.9 |
|    | D データの活用      | 76.0 | 68.3 | 65.5 |
| 観点 | 知識・技能         | 73.8 | 68.4 | 67.2 |
|    | 思考・判断・表現      | 71.4 | 59.4 | 56.5 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|----------|--|---|
| A 数と計算   | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○四則計算の問題では、すべてにおいて正答率が8割を超えており、基礎基本が定着していると言える。</p> <p>●(2位数)×(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題の正答率は63.4%で、全国を上回っているが、他の問題に比べて正答率が低い。筆算の仕方だけでなく、計算の意味や計算の仕方を図を使って説明する力に課題があると言える。</p>               | <p>・今後も基本的な計算の定着に向けた学習を継続したい。また、AIDリルなどを活用することで、児童の状況に応じて取り組む課題の量や質を選べるようにして、個別最適な学習を目指していく。</p> <p>・授業では、計算の仕方を図や数直線などを活用して説明したり、友達と考えを交流したりする時間を十分に確保し、考えや解法を記述して説明する力を伸ばしていく。</p>      |
| B 図形     | <p>平均正答率は、市や全国の平均より高い。</p> <p>○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の正答率は54.9%で、全国の平均を34.1ポイント上回っているが、低い正答率だった。</p> <p>●正方形の意味や性質について理解しているかどうかを問う設問の正答率は41.5%で、全設問の中で最も低い正答率だった。様々な図形の性質を活用する問題に課題があると言える。</p> | <p>・様々な図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したりする活動を通して、定着を図っていく。</p>   |
| C 変化と関係  | <p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する設問の平均正答率は63.4%は、全国の平均を7.9ポイント上回っている。</p> <p>●百分率で表された割合について理解しているかを問う設問では、平均正答率が全国平均を上回ったが、正答率が54.9%と低く、百分率と割合についての本質的な理解がなされていないことが課題と言える。</p>       | <p>・百分率や割合の本質的な理解を促すために、何のためにどんな手段を用いるとよいか考える時間を十分にとり、友達と話し合う中で理解を深めていくことで、本質的な理解に迫っていく。</p> <p>・生活場面で割合が用いられていることを提示しながら、学習活動の中で身の回りの事象と関連付けて考えられる場を設定し、日常生活と結び付けて割合を活用できるように指導していく。</p> |
| D データの活用 | <p>平均正答率は、市や国の平均より高い。</p> <p>○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかをみる設問の正答率は69.5%で全国の平均を13.3ポイント上回っている。</p> <p>●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができかどうかをみる設問の正答率は74.4%で、全国を9.8ポイント上回ったが、無回答率が7.3%で、全国より2.4ポイント高かった。</p>    | <p>・今後も、身の回りの事象について、興味・関心や問題意識をもってデータを集めたり、集めたデータを分類整理したりできるような場を設定していく。また、二次元の表を分類整理することで、情報をより分析的に考察することを実感的に理解できるように指導していきたい。</p>  |

## 宇都宮市立今泉小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答が87.8%で、全国平均を4.3ポイント上回っている。児童は、自分に自信をもって学校生活を送ることができている。これからも、自己肯定感を高められるように、意図的に場の設定や声掛けを行っていく。

○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の質問では、肯定的回答が65.8%で全国の平均を2.1ポイント上回っている。また、「各教科で学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の設問でも、全国平均ポイントを上回っている。これからも、各教科において、自分の考えをまとめたり、相手に伝わりやすい話し方を身に付けたりできるよう、話し合い活動や発表する場を意識的に設けていく。

○国語に関する質問については、ほぼ全国の肯定的回答率を上回っている。特に、「国語の勉強は大切ですか」という質問に関しては、「当てはまる」という回答が全国の平均を13.8ポイント上回っており、本校児童の児童が国語の学習の大切さを強く感じていることが伺える。本校児童が学習に対し誠実に向き合っている気持ちを大切に、指導を継続していく。

○算数に関する質問については、いずれも全国の肯定的回答率を上回っている。特に、「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問では全国の平均を8.8ポイント、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、全国の平均を11.1ポイント上回っており、算数科の学習の大切さを感じていることが分かる。今後も、算数科の学習の重要性について意識させながら指導をしていく。

○算数の調査の「解答時間は十分でしたか」という質問では、「時間が余った」という回答が72%で高く、数式や解の導き方など、十分数学的な思考力の高さが見受けられる。

○「家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」の質問では、週3日～ほぼ毎日と回答した割合が17.1%で、全国の平均を3.1ポイント上回った。本校で、個人用PCを毎日家庭へ持ち帰らせ、学習に積極的に活用しようとする取組が、ある程度の成果を上げていると考えられる。今後も、家庭と学校での個人用PCの効果的な学習への利用を考えていく。

●「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか」の質問では、肯定的回答は71.9%、「日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の質問では、肯定的回答が76.9%で、全国の平均を若干下回っている。学校だけでなく、地域にも目を向けていけるように、児童に啓発していく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問では、肯定的回答率が69.5%で、全国の平均を7.9ポイント下回った。授業でのふり返りにおいて、分かった点、分からなかった点を整理し、次時の学習に繋げていくことを積み重ねていく。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問では、肯定的回答率が70.7%で、全国の平均を5ポイント下回っている。学級活動において、本校計画的にテーマについて話し合い、自分たちの生活などについて振り返る時間を積み重ねていく。

●国語の調査の「解答時間は十分でしたか」の質問では、「やや足りなかった」という回答が、42%で高く、問題の解答に戸惑っている様子が見られた。記述の問題に対して、児童の苦手意識が見られ、問題の解答率にも影響が表れている。

## 宇都宮市立今泉小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                    | 取組の具体的な内容   | 取組に関わる調査結果   |
|---|---|--|
| 見通しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業を展開する。 | 児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり、目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末は、自らの学びを振り返る時間を確保することができるようにする。 | 「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答は8割を超えており、学習課題に対して主体的に取り組もうとする意欲のある児童が多いことが分かる。しかし、「自分とちがう意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答は8割を下回っており、友達と考えを交流し、自分の考えと比較して、さらに考えを深めていくことを苦手としている児童が多いことが分かった。自分の考えの持たせ方や話し合いの仕方を様々工夫し、意欲的に話し合いに参加したり、話し合い活動に達成感を味わったりできるよう、指導の工夫をしていく。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答は7割を下回っており、児童が次の学びにつなげられる振り返りの充実を図っていくことが課題である。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題  | 重点的な取組                          | 取組の具体的な内容   |
|---|---------------------------------|---|
| 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の解答は、8割をやや下回っている。また、特に、国語の調査問題で、記述式の問題での無回答率が全国を大きく上回っているものもあった。 | 自分の考えを分かりやすく書いたり、伝えたりする力を身に付ける。 | 各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく。また、友達のことを聞いたり、自分の考えと比較したりする活動を通して、自分の考えに自信をもったり伝えることへの楽しさを味わったりすることができるような授業展開を工夫していく。個人用パソコンも積極的に活用し、様々な形態で協働的に学ぶ機会を設けるようにする。 |